

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学

自己点検・自己評価報告書 (第10号)

(平成28年度 教育に関する項目)

ー建学の精神を踏まえ教育改革に取り組み、

世界基準で音楽人を育てるー

平成29年8月

(学) 三室戸学園

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学自己点検・自己評価報告書の作成

あたって

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学は、それぞれ学則に「教育活動等の状況について自ら点検・評価を行う」ことを定めています。

平成28年度は、第三期中期計画の初年度になりますが、自己点検・自己評価の実施にあたっては、平成28年度事業計画の重点項目に焦点を当て、本学の教育が建学の精神である「音楽芸術研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格の形成を目途とする」やディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの3ポリシーに則って行われているか、また、実践的教育の場において質の維持・向上を図っているか、学生への支援を十分行っているか、地域との連携を図っているかなどを重点的に点検評価を行いました。

また、本年度も外部点検・評価も合わせて実施いたしました。

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学は、今後も教育改革に取り組み、教育の質をこれまで以上に高め、有為な人材を育成してまいります。

平成29年8月

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学

学 長 三室戸 東 光

東邦音楽大学 教育改革への取組みに関する評価表
(平成28年度教育改革実施分)

評価点：5＝教育改革が大きく進んでいる。

4＝教育改革が順調に進んでいる。

3＝おおむね教育改革が進んでいる。

2＝教育改革がやや遅れている。

1＝教育改革が遅れている。

評価校	東邦音楽大学									
評価者	(外部評価) 久津間 則子 評価員 (川越市文化芸術振興課長)					自己点検・自己評価特別検討 委員会大学部会				
評価項目	評 価 点 数					評 価 点 数				
1.入学者選抜	5	④	3	2	1	5	4	③	2	1
2.カリキュラムの 内容・学修方法・ 学修支援	⑤	4	3	2	1	5	④	3	2	1
3.学修成果	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
4.教員組織	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
5.施設・設備	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
6.社会貢献	⑤	4	3	2	1	⑤	4	3	2	1

○久津間評価員のコメント

音楽系特別指定校推薦入試の実施、AO入試回数の見直し、他大学との連携による教職特設コースの創設など教育改革・入試改革に努められています。

また、大学の特色を活かした演奏会やコンサート、生涯学習講座等地域に密着した事業実績が数多くあります。特に、南古谷ウインドオーケストラをはじめ、様々な連携が図られ、大学を核とした地域作りに大きく貢献されています。

さらに、本市職員との地域連携会議では、積極的に意見交換を行うなど社会貢献に対する意識の高さを感じます。

引き続き、計画の実現に向け、教育改革に取り組んでいただきたいと思います。

○大学部会の評価の主な根拠

1. 入学者選抜

- ・平成29年度入試から「音楽系特別指定校推薦入学試験」を実施（5名入学）した。（音楽系コースを有する高校から優秀な学生を獲得するため、学費の一部免除を実施）
- ・入学者数は、昨年度を下回った。

2. カリキュラムの内容・学修方法・学修支援

- ・3ポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）を改定した。
- ・東京未来大学と連携し、小学校教員免許、幼稚園教員免許が取得できるカリキュラムを構築した。
- ・「Konzertfach（演奏専攻）」及び「教職実践専攻」を新設した。（平成29年度改組）
- ・アパート代の一部補助を4年間に拡大した。

3. 学修成果

カリキュラムマップを作成し、学修時間調査を実施した。
定期演奏会、卒業演奏会等でその成果を発表した。

4. 教員組織

大学教員1名にベストティーチャー賞を授与し、教員の意欲向上を図った。
後期教員オリエンテーションにおいて、外部講師を招き、FD研修を実施した。

5. 施設・設備

構内の芝生化、樹木の植栽など環境保護を促進した。

6. 社会貢献

- ・地元の小学校の児童を対象にした音楽鑑賞会など多数のボランティア演奏会を開催した。
- ・川越市、ふじみ野市とそれぞれ地域連携協定を締結し、地域連携のための協議を行った。

東邦音楽短期大学 教育改革への取組みに関する評価表
(平成28年度事業分)

評価点：5＝教育改革が大きく進んでいる。

4＝教育改革が順調に進んでいる。

3＝おおむね教育改革が進んでいる。

2＝教育改革がやや遅れている。

1＝教育改革が遅れている。

評価校	東邦音楽短期大学									
評価者	(外部評価) 石原 健 評価員 (東京都立大塚病院事務局長)					自己点検・自己評価特別検討 委員会短期大学部会				
評価項目	評 価 点 数					評 価 点 数				
1.入学者選抜	⑤	4	3	2	1	5	④	3	2	1
2.カリキュラムの 内容・学修方法・ 学修支援	⑤	4	3	2	1	5	④	3	2	1
3.学修成果	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
4.教員組織	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
5.施設・設備	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
6.社会貢献	⑤	4	3	2	1	⑤	4	3	2	1

○石原評価員のコメント

建学の精神や教育の理念を明確に打ち出すとともに、時代のニーズに応えるカリキュラムや入学選抜を実施することにより、安定した学生数を確保し、優れた人材の育成に努めており、教育改革に対する取組姿勢は素晴らしいと感じます。

また、私ども大塚病院ではほぼ毎月1回開催していただいている「院内ミニコンサート」は、患者さんの貴重な癒しのひとときとなっており、毎回大好評を博しています。こうした社会貢献の意識の高さにも敬意を表したいと思います。

○短大部会の評価の主な根拠

1. 入学者選抜

AO入試、推薦入試、一般入試に加え、社会人入試を実施した。

入学者数は、昨年度を下回った。

2. カリキュラムの内容・学修方法・学修支援

- ・3ポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）を改定した。
- ・「ピアノレスナーコース」を「ピアノ指導者コース」に名称変更し、「電子オルガン専攻」を「器楽専攻（電子オルガンコース）」に組み入れた。（平成29年度実施）

3. 学修成果

カリキュラムマップを作成し、学修時間調査を実施した。

定期演奏会、卒業演奏会等でその成果を発表した。

4. 教員組織

- ・短期大学教員1名にベストティーチャー賞を授与し、教員の意欲向上を図った。
- ・後期教員オリエンテーションにおいて、外部講師を招き、FD研修を実施した。

5. 施設・設備

- ・文京図書館 Music Commons を整備した。

6. 社会貢献

- ・都立大塚病院、NECチャリティーコンサートなど多数のボランティア演奏会を開催した。
- ・文京区と地域連携協定を締結した。（文京区は、毎年、区内に所在する大学長と懇談会を実施しており、本短期大学長も毎年出席している。）

平成28年度 事業実施報告書

1. 概要

平成28年度は、本学園にとってターニングポイントになった年度であった。

すなわち、平成28年度までの5か年計画であった第二期中期計画を検証、見直しを行い1年前倒しの上、平成28年度から新たに第三期中期計画並びに、その初年度として平成28年度事業計画を策定した。理事長の強いリーダーシップのもと教職員が一丸となって、計画の実現に邁進してきた。

第三期中期計画及び平成28年度事業計画の主要目的は、教育改革を更に押し進めることと学生生徒の確保増を図ることによる経営の安定化である。

我が国の高等教育機関とりわけ私立大学・短期大学を取り巻く環境は年々厳しさを増し、特に2018年（平成30年）以降は18才人口のさらなる減少が確実であり、大学間のより厳しい学生獲得競争の激化が見込まれている。

また、音楽を志し、音楽系大学に進学する者が全体的に漸減傾向にある。

このような厳しい状況の中、本学園は、創設以来「音楽芸術研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格の形成を目途とする」ことを建学の精神・理念として掲げ、①一貫教育の実践 ②少人数制教育 ③国際化の推進 ④地域社会との交流という4つの教育方針の下に、小規模大学の特色を活かし、学生・生徒それぞれの思いとニーズをしっかりと受け止め入口から出口まで面倒見の良い学園として、個に応じた教育・指導等を実践してきた。

平成28年度事業計画の達成状況を俯瞰するに、教育改革及び入試改革については、順調に計画を達成した。

短期大学について、法令に定められている認証評価を受審（一般財団法人短期大学基準協会）し、「適格」との評価を得た。

大学及び短期大学については、平成28年度私立大学等改革総合支援事業（タイプ1：大学及び短期大学、タイプ2：大学）に採択された。

本事業の採択は、平成27年度から2年連続であり、本学園が取り組んできた教育改革について、文部科学省及び日本私立学校振興・共済事業団から高い評価を得たことによるものである。

また、私立大学等教育研究活性化設備整備事業に文京キャンパス図書館改修が採択され、アクティブラーニングの設備を備えた図書館として、リニューアルした。

教育の充実で言えば、大学院及び大学について、東京未来大学通信教育課程との連携により、小学校教員免許及び幼稚園教員免許取得を目指す制度を作ったことが特筆される。

2. 事業計画の推進状況

○平成28年度に実施した主な新規事業

(1) 教育改革の推進

平成28年度については、これまでの様々な教育改革に加えて次の施策を新たに実施した。

①世界で活躍する演奏家や質の高い教員の育成するため、大学に「Konzertfach（演奏専攻）」及び「教職実践専攻」を新設することとした。（平成29年度改組）

また、短期大学は、「ピアノレスナーコース」を「ピアノ指導者コース」に名称変更し、「電子オルガン専攻」を「器楽専攻（電子オルガンコース）」に組み入れることとした。（平成29年度改組）

②大学院、大学、短期大学の3ポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）を改定し、これまで以上に教育理念、教育方針を明確にした。

③ベストティーチャー賞に山崎明美大学准教授、國谷尊之短期大学教授を選出し、8月31日に授賞式を行った。

④後期オリエンテーション（8月31日）に合わせて筑波大学伊藤眞副学長を講師に招きFD・SD研修を実施した。

なお、SD研修については、4月、6月、7月、12月にも実施した。

(2) 入試改革について

①平成29年度入試（平成29年4月入学）において、新たに音楽系特別指定校推薦入試を実施し、本試験により5名が受験し、全員が合格し入学した。

(3) 関係機関との連携協定について

平成28年度において、本学園の教育の質の向上に資すると共に社会への貢献に寄与することから、次の機関と連携協定を締結した。

①文京区と大学・短期大学との相互協力協定を締結した。

（文京区と大学は、従前から相互協力協定を締結している）

②ふじみ野市と大学との相互協力協定の改定締結を行った。

③東京未来大学と本学園は、小学校教員免許および幼稚園教員免許の取得に関し協定を提携した。平成28年度10月より、教職特設コースの学生4名が履修している。

(4) 学生支援について

下宿生のアパート代の一部補助について、これまでは、入学生（1年間）のみを対象にしていたが、全学年に補助の対象を拡大した。

(5) 国際交流について

ウィーンフィルのヴァイオリン奏者であるルネ・シュタール氏を招き、学生生徒を対象に公開レッスンをを行った。

(6) 管理・事務組織の充実について

入試広報部門を強化・充実するため、7月に入試広報センターと企画室統合し、

入試広報企画センターを発足させた。

(7) 図書館の整備について

文京キャンパス図書館について、文部科学省から私立大学等教育研究活性化設備整備事業に採択され、アクティブラーニングにも対応できる改修を行った。

(8) その他

平成 28 年 8 月 18 日(木)、19 日(金)、8 月 22 日(月)から 8 月 24 日(水)の 5 日間の日程で平成 28 年度「教員免許状更新講習」を開催し、以下の 5 つの講習を行った。

- ・必修領域「教育の最新事情」
- ・選択必修領域「組織的対応の必要性和危機管理上の課題」
- ・選択領域「道徳教育と音楽教育実践を学ぶ」
- ・選択領域「実践吹奏楽指導法」
- ・選択領域「実践合唱指導法」

3. 事業計画の推進状況

○平成28年度の事業計画の重点項目についての取組み状況 (新規事項を中心に記載)

項目	実施内容
I - (1)	<p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神を踏まえた、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー（3ポリシー）の見直しを行い、3ポリシーに合致した教育を推進する。 ・教育理念である国際化を推進することにより、国際的な視野を持った音楽人・社会人を育成するとともに、ウィーンでの海外研修や海外演奏会を中心に国際交流や社会連携を積極的に推進する。また、ウィーンから現地教員を招請する。 <p>【平成28年度に実施した事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院・大学及び短期大学について、それぞれディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー（3ポリシー）の改定を行った。 ・ウィーンフィルから、バイオリン奏者ルネ・シュタール氏を招き、公開・クローズドレッスンを行った。
I - (2)	<p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GPA等を活用して評価基準を明確化・厳格化し、成績評価制度を整備充実する。 <p>【平成28年度に実施した事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奨学金支援の対象学生の選考にあたって、GPA等を活用した。 ・定期演奏会・卒業生代表演奏会の出演者選考にあたってGPA等を活用した。
I - (3)	<p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教員がアカデミックスケールを共有し、適切な学生評価を実施する。 <p>【平成28年度に実施した事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・短大について、平成29年度の専攻再編に沿って、アカデミックスケールを見直した。

I - (4)	<p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生相談員、クラス担任及びレッスン担当教員等が連携し、学生に対する修学、学生生活等に対する支援活動を行うための方策を推進する。 ・障害のある学生生徒への支援を必要に応じて適切に行う。 ・各授業科目等に関する質問、相談に応じるためオフィスアワーを活用する。 ・就学及び修学を支援するとともに優秀な学生生徒を確保するため、特待生制度や奨学金の給付制度並びに地方出身者のためのアパート借り上げのための補助制度等についても、ニーズに対応させながら卒業年次まで継続して実施する。 <p>【平成 28 年度に実施した事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害学生生徒支援センター（通称：スマイルデスク）を設置した。 ・地方出身者のアパート借り上げ補助を全学生（平成 27 年度までは、入学生のみ）に拡大した。
I - (5)	<p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の教育の特色であるウィーン研修及び海外演奏旅行により、海外での演奏活動の実践や海外の演奏家・演奏団体等との交流を深め、訪問地や演奏地の市民等との間における国際交流を積極的に推進する。また、これらの活動や交流を通して国際感覚やマナー等を身に付けさせるようにする。 <p>【平成 28 年度に実施した事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度は、延べ 91 名がウィーンアカデミーにおいて、実技研修を受講した。また、海外での卒業演奏もハンガリーにおいて行った。
I - (6)	<p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念の一つである地域社会との交流を推進する観点から、地域の自治体や企業、各機関との連携の下、積極的に人材、施設（グランツザール等）等の有効活用を図る。 <p>【平成 28 年度に実施した事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東邦音楽短期大学が文京区と一般交流協定を締結した。 ・平成 29 年 3 月に川越市幹部職員と本学幹部教職員が今後の地域連携について、意見交換を行った。
II - (1)	<p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生等のニーズの把握及び分析等を行い、学生生徒の増を図る。 ・広報入試センター、企画室を中心に、学生生徒の確保のための対応策を講じる。 ・教員が学生生徒獲得について強い意識を持ち、高校訪問、オープンキャンパス、体験レッスン等に臨むための方策を進める。 <p>【平成 28 年度に実施した事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報入試センターと企画室を改組し、「入試広報企画センター」を設置した。

Ⅲ－（１）	<p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点校を中心に高校訪問を効率的・効果的に行い、学生の確保に努める。 <p>【平成28年度に実施した事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「音楽系特別推薦指定校推薦入試」を実施した。（平成29年4月入学者から実施し、5名が入学した。）
Ⅲ－（２）	<p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在実施している、AO入試、推薦入試、一般入試及び社会人入試の実施方法を適宜検証し、必要な改善を図る。 <p>【平成28年度に実施した事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度入試について、その回数が多いことが、反って受験生の不安を煽り、また、教職員の業務付加も増大したことから、平成30年度入試について、試験回数を見直した。（AO入試10回→7回）
Ⅳ－（１）	<p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園創立80周年（平成30年）を迎え、更なる発展充実を図っていくため、寄付金募集の強化並びにサポーター制度の導入を行い、その寄付金の増額に努める。 <p>【平成28年度に実施した事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省へ特定公益増進法人としての継続申請を行った。
Ⅳ－（２）	<p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費は教職員の人数が大きなウェイトを占めるので、専任教員の定数と実数、非常勤教員数の見直しを図り、その抑制に努める。 <p>【平成28年度に実施した事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退職教職員の後任補充を最小限に留め、人件費の抑制を図った。 ・退職した非常勤講師の後任補充を最小限に留め、専任教員の担当時間数を増やし、教育の質の維持を図った。
Ⅴ－（１）	<p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園の役職員の意識改革を行うとともに、学園本部、経理本部及び事務本部の意思を統一し、連携を深め、学園全体としての確かつ円滑な運営を行う。 そのために、学園の全教職員が私立学校全体を取り巻く状況や本学園の現況等について、常に意識を持って業務を行うように啓発等を進める。 <p>【平成28年度に実施した事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新年度会（専任教職員が出席）において私立学校全体を取り巻く状況や本学園の現況等について、理事長から説明を行い、教職員の意識の向上を図った。

V－（２）	<p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務職員等としての資質、知識、技能等の向上を図り、SD（スタッフディベロップメント）としての機能の充実を図るため、学外の研修会や会議等に積極的に参加させるとともに、学内においてもSD研修を実施する。
	<p>【平成28年度に実施した事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中堅及び若手事務職員を対象にしたSD研修を実施した。（SD研修は、計5回実施） ・日本私立学校振興・共済事業団が主催する「私学スタッフセミナー」に職員が参加した。 ・事務職員が、文部科学省が行っている「私立大学等の振興に関する検討会議」を傍聴した。（交代で傍聴した）
VI－（１）	<p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者や高齢者への配慮に努める。
	<p>【平成28年度に実施した事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害学生生徒支援センター（通称：スマイルデスク）を設置した。
VII－（１）	<p>《重点項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価及び外部評価の結果を運営の改善に活用する。

平成28年度 演奏会等実施一覧

日程		演奏会名	会場
7月23日(土)	土	第193回 定期研究発表演奏会 〔大学・短大 ソロの部〕	東邦音楽大学 グランツザール
10月1日(土)	土	東邦音楽大学・東邦音楽短期大学 第11回 トライアルコンサート ～オーケストラとの共演～	東邦音楽大学 グランツザール
11月23日(水・祝)	水	第194回 定期研究発表演奏会 〔大学・短大 オーケストラの部〕	めぐろパーシモンホール 大ホール
11月26日(土)	土	第195回 定期研究発表演奏会 〔大学・短大 合唱の部〕	東邦音楽大学 グランツザール
12月14日(水)	水	第196回 定期研究発表演奏会 〔中・高・二高 ソロの部〕	東邦音楽大学 グランツザール
12月17日(土)	土	第197回 定期研究発表演奏会 〔大学・短大 ウインドオーケストラの部〕	ウェスタ川越 大ホール
平成29年 1月18日(水)	水	第198回 定期研究発表演奏会 〔中・高・二高 合奏、合唱の部〕	東邦音楽大学 グランツザール

平成 28 年度 大学・短期大学 オープンキャンパス等 実施一覧

日程		イベント	会場
5月14日	土	大学 高校生入門講座 音楽療法/メディアデザイン	川越キャンパス
5月14日	土	短大 社会人説明会	文京キャンパス
5月21日	土	短大 キャンパス体験	文京キャンパス
5月28日	土	大学 キャンパス体験	川越キャンパス
5月28日	土	短大 高校生入門講座 コンポーザングアーティスト[A]	文京キャンパス
6月4日	土	大学・短大 入試対策	文京キャンパス
6月4日	土	短大 社会人説明会	文京キャンパス
6月11日	土	短大 社会人説明会	文京キャンパス
6月11日	土	大学 高校生入門講座 音楽療法/メディアデザイン	川越キャンパス
		短大 高校生入門講座 コンポーザングアーティスト[A]	文京キャンパス
6月18日	土	短大 キャンパス体験	文京キャンパス
6月25日	土	大学 キャンパス体験	川越キャンパス
7月2日	土	大学・短大 入試対策	文京キャンパス
7月2日	土	短大 社会人説明会	文京キャンパス
7月10日	日	短大 オープンキャンパス	文京キャンパス
7月24日	日	ピアノセミナー	文京キャンパス
7月31日	日	大学 オープンキャンパス	川越キャンパス
8月2日	火	夏期受験スキルアップ講習会	文京キャンパス
8月3日	水		文京キャンパス
8月4日	木		文京キャンパス
8月6日	土	短大 社会人説明会	文京キャンパス
8月21日	日	短大 オープンキャンパス	文京キャンパス
8月28日	日	大学 オープンキャンパス	川越キャンパス
9月3日	土	声楽セミナー	文京キャンパス
9月3日	土	大学・短大 入試対策	文京キャンパス
9月10日	土	大学 高校生入門講座 音楽療法/メディアデザイン	川越キャンパス
9月10日	土	短大 社会人説明会	文京キャンパス

9月17日	土	短大 キャンパス体験	文京キャンパス
9月24日	土	大学 キャンパス体験	川越キャンパス
10月1日	土	短大 高校生入門講座 コンポーザリングアーティスト[B]	文京キャンパス
10月8日	土	大学・短大 入試対策	文京キャンパス
10月8日	土	短大 社会人説明会	文京キャンパス
10月9日	日	大学 見学会	川越キャンパス
10月23日	日	短大 オープンキャンパス	文京キャンパス
11月5日	土	大学 高校生入門講座 音楽療法/メディアデザイン	川越キャンパス
		短大 高校生入門講座 コンポーザリングアーティスト[B]	文京キャンパス
11月5日	土	短大 社会人説明会	文京キャンパス
11月12日	土	大学 キャンパス体験	川越キャンパス
11月19日	土	短大 キャンパス体験	文京キャンパス
12月3日	土	大学 キャンパス体験	川越キャンパス
12月3日	土	短大 社会人説明会	文京キャンパス
12月10日	土	短大 キャンパス体験	文京キャンパス
12月10日	土	大学 高校生入門講座 音楽療法	文京キャンパス
12月24日	土	冬期受験スキルアップ	文京キャンパス
12月25日	日		文京キャンパス
12月26日	月		文京キャンパス
1月14日	土	短大 社会人説明会	文京キャンパス
2月18日	土	大学 高校生入門講座 音楽療法	文京キャンパス
2月18日	土	短大 社会人説明会	文京キャンパス
3月11日	土	大学 キャンパス体験	川越キャンパス
3月11日	土	大学 高校生入門講座 音楽療法/メディアデザイン	川越キャンパス
3月11日	土	短大 社会人説明会	文京キャンパス
3月18日	土	短大 高校生入門講座 コンポーザリングアーティスト[A]	文京キャンパス
3月18日	土	短大 キャンパス体験	文京キャンパス

【フォトギャラリー】



↑ 大学卒業演奏旅行（ハンガリー）



↑ 第194回定期演奏会（オーケストラの部）



↑ 第198回定期演奏会（中・高・二高合唱、合奏の部）



↑ リニューアルした文京キャンパス図書館（Music Commons）



↑学生によるボランティアコンサート（於：東京都立大塚病院）



↑川越市と本学との地域連携協議会



↑ふじみ野市と包括連携協定締結



↑2020 東京オリンピック・パラリンピック開催への協力支援

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学自己点検・自己評価報告書作成者

○外部評価員（順不同、敬称略）

（大学評価） 川越市文化芸術振興課長 久津間 則 子
（短大評価） 東京都立大塚病院事務局長 石 原 健

○自己点検・自己評価特別検討委員会

大学自己点検・評価部会

短大自己点検・評価部会

委員長

大学自己点検・評価部会委員長

短大自己点検・評価部会委員長

三室戸 東 光

高 橋 幸 雄

國 谷 尊 之

委員 片 岡 啓 子

加 古 勉

遠 山 菜穂美

大 場 文 恵

宮 野 陽 子

粕 谷 宏 美

二 俣 泉

中 島 裕 紀

山 崎 明 美

馬 場 存

益 田 善 太

市 山 恵 一

川 端 敏 朗

井 上 淳 司

小 林 律 子

岩 間 丈 正

辻 敏 明

中 村 利 博

山 岡 香 苗

田 中 健 一

吉 富 浩 二